シード演奏で合唱コンクール関東大会へ進出！

無事演奏終了、笑顔がこぼれます。（神奈川県立音楽堂エントランスにて）

9月4日(日)、富士通川崎合唱団は、神奈川県立音楽堂において開催された「第54回 神奈川県合唱コンクール」に出場しました。

【合唱コンクールとは】
全日本合唱連盟が主催し年に一度開催されるイベントで、いくつかの部門（大学部門、一般部門など。私たちの場合は職場部門です）ごとに演奏を競い合います。県大会から始まり、支部大会（私たちの場合には関東大会となります）で勝ち残れば、全国大会に出場することができます。審査結果は金／銀／銅／奨励賞／賞なしの5つに分類されます。
　今年度の私たちの演奏内容は次の通りです。

【演奏内容】
■曲目：
［課題曲］
〈G1〉O quam gloriosum　（ああ、なんと栄光にあふれていることか）作曲：Jacobus Vaet
［自由曲］
Laudate Dominum（主をほめたたえよ）Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ　　作曲：Vagn Holmboe

■指揮：加藤雅子

【成績】
昨年度全日本合唱コンクール全国大会出場のため本審査対象外
★シード賞（関東大会推薦状付）受賞

【当日の様子】

当日朝の練習も真剣に…（富士通ユニオンビル）

折しも台風の影響で不安定な天気の中､私たちは前日練習も何とか予定通り行うことができ、コンクール本番当日を迎えました。神奈川県合唱コンクールは、2日間にわたって開催され、1日目は中学校、高校部門の審査、2日目が一般部門の審査とシード団体演奏です。昨年度も全国大会に出場しているわが団はシード団体として演奏を披露しました。

課題曲は、栄光と喜びに満ち溢れた晴やかな曲で、ソプラノ、アルト、テナー、ベースの四声が互い違いに追いかけ合うような動きの面白さがあります。また自由曲3曲は、単純な四声ではなく、それぞれのパートがさらに分かれ、隣り合う音同士がぶつかる複雑な和声の難しさがありますが、とても繊細で美しい響きの曲です。

今年は震災のために、コンクール曲の練習が例年より出遅れたこと、そして音の難しさもあって、暗譜に少々てこずりました。しかし、ふだんの練習の新たな試みとして、毎回練習の最後に、必ず全曲通して演奏して録音を取り、それを各自が聴いてパートの中で意見を出し合って気になった個所を改善していく、という地道な作業を重ねてきました。

整列して、これから本番へ向かいます

本番のステージ上では、緊張のため、練習通りの音を再現する難しさをいつも感じます。練習でうまく行ったことを100パーセント、いえ、120パーセント、実力として本番で発揮できればいいのですが、どうしても反省点が多くなりがちです。

でも、今回は特に団員の意識が高く、各パートが目標を掲げて頑張って練習してきたので、きっと例年以上の成果をあげ、シード団体らしい演奏ができたのではないでしょうか。

緊張の本番！

表彰式でシード賞の賞状を受け取る富士団長

　次のステージは、10月2日(日)によこすか芸術劇場で行われる関東大会です。
限られた時間を最大限有効に使い、さらに演奏に磨きをかけて臨みたいと思います。
神奈川近辺にお住まいで合唱を聴くのがお好きな方はぜひ会場に足を運んでみてくださいね！

【記事・写真提供：富士通川崎合唱団　（ソプラノ）土志田元子】